学生提案成果報告⑵　③

子ども視点で地域の魅力を引き出そう

―さくら市喜連川地区の子どもたちとのまち歩きマップづくり―

宇都宮共和大学シティライフ学部西山ゼミ３年　福田珠花（ふくだ　みか）
石川裕也　大久保友翔　重松咲来　関口夏鶴　髙橋翔太　野村　陸　塙　夏唯斗　福田哲士

【概　要】本報告は，さくら市喜連川地区における子ども向け観光パンフレットの作成を目指した実践的まちづくり活動である。今年度は，昨年度に続き地域住民や事業者，地域に密着した活動を行う団体，さらにはさくら市生涯学習課と連携し，地元喜連川地区の小学生４名とともに中心部のまち歩きやそれに基づくマップ制作を共同で行った。この活動により，子どもにとって魅力的なまち歩きマップの完成を目指した。また，マップづくりに参加した小学生が地元の魅力に気が付き，郷土愛を醸成することができたことも大きな成果であった。

1．活動の背景

さくら市喜連川は，かつて足利氏にゆかりのある喜連川氏の城下町として栄えたが，平成以降，少子高齢化に伴う活力の低下が心配される地域である。しかしながら，喜連川の中心市街地には，魅力的な史跡や施設，街並みが残されているだけでなく，多くの人材が居住，就業している。それらを発掘⇒磨き上げ⇒活用することで，魅力的な観光地・居住地として賑わいを取り戻せる可能性がある。

報告者らは，2021 年 7 月から当地域と関わりを持つようになった。先述のように，当地区は喜連川藩の城下町であるが，それを伝える地図やガイドブックが存在しない。また，地元の小学生たちは，それを誇りに感じていたり，当地区に強い愛着を持ったりしていない。地域の将来は次世代によって担われる。自身が住むまちについて知り，魅力的な大人たちと関わることで，地域愛や誇りが醸成させるのではないか。そして，そうしたことが将来の地域発展に寄与するのではないか。以上の仮説をもとに，本プロジェクトがはじまった。そこで本報告では，さくら市喜連川において，子ども視点での観光パンフレットづくりを行うことにより，当地区の魅力や賑わいを取り戻すことを目指す。

2．地域の子どもたちと考えるまちづくり活動

昨年度は，新型コロナウイルス感染拡大に伴い，夏季から秋季にかけて，目立った活動ができなかった。そうした中でも，12 月に喜連川中心部から北東に 1km ほどの場所にあるフィオーレ喜連川（温泉付き大規模住宅地）において，森の中で寝ながら映画を観る「森の映画上映会」を行った。当イベントでは，放映権が付与されたディズニー映画を放映したが，集まった約 10 名の子どもたちは，寒い中映画を楽しんでくれた。映画の内容よりもむしろ森の中で寝ながら映画を鑑賞できるというロケーションや発想が子どもたちには魅力的だったようである。

表１　マップ制作の過程

日程	内容
2022 年 4 月	・NPO 法人ポン・テ代表Ｏ氏との商店街まち歩き ・さくら市喜連川支所の方との打ち合わせ ・ゼミ生による個展の開催
5 月	・ゼミ生のみで喜連川商店街のまち歩き①
6 月	・ゼミ生のみで喜連川商店街のまち歩き②
7 月	・喜連川小学校 3，4 年生とまち歩き（写真 1-①）
8 月	・まんまとちぎにて流しそうめん実施（写真 1-④）
9 月	・観光パンフレットづくりワークショップ（写真 1-②，③）

写真１　さくら市喜連川地区での活動の様子

3. 主な活動実績

今年度実施した主な活動は表１のとおりである。本事業は，まち歩きマップ制作と地域交流拠点での地域の子ども達との交流に分かれている。

【地域交流拠点での子どもとの交流】　まず，後者から説明する。報告者たちの活動拠点にした「まんまとちぎ」は，フィオーレ喜連川にある小さなオーガニック八百屋であり，昨年度から継続して交流している。2022 年 4 月 30 日には，西山ゼミの学生によるデジタル絵画の個展を開催した。また，8 月 21 日には地域の子どもたちを集めて流しそうめんを行った（写真 1-④）。この活動の趣旨は，地域の子どもや保護者との関係構築にある。また，子どもがどのようなことに興味を持つのか，魅力に感じるのかを活動を通して把握することを目的としている。

【子ども向け観光パンフレットの制作】　4 月にさくら市生涯学習課とまち歩きマップづくりについて相談し，まち歩きマップ制作を連携して行うこととなった。当課から喜連川小学校の児童に対して参加者募集を行ってもらい小学校 3・4 年生，4 名が集まった。まち歩きでは以下のような点を工夫した。

・子どもたちにもカメラを預け，興味を持ったものを自由に撮影してもらった。
・子どもには難しい史跡や偉人などの話は極力避け，ありふれたモノに着目するよう誘導した。
・学生やお店の方からのクイズや体験活動（例えば，老舗のお菓子店でお菓子制作体験やカフェでカフェオレづくりなど）を通じて，主体的に考えたり，行動したりできるよう工夫した。

9 月 17 日，再度子どもたち 4 人を集めてまち歩きマップづくりワークショップを開催した。現在は，ゼミ生全員で，参加者 4 人が作成したまち歩きマップや子どもたちの声をもとにまち歩きマップを作成中である。10 月末の完成を目指し今後も活動を続け，完成したパンフレットは参加者やさくら市生涯学習課，喜連川商店街の方々に届け、配布する予定になっている。

4. 活動を通して

報告者たちは，2 年間「子ども向け観光パンフレット」作成に向け活動をし，子どもの発想力と創造性の豊かさに気づかされた。少子高齢化や地域の過疎化が問題となる現代で，「子どもが集まるまちにするにはどうすればよいか？」を報告者らが考えた末、当プロジェクトに行きついた。子どもの視点を知ることで，子どもが興味を持つ地域の魅力，強みは何かを把握し子ども目線での地域活性化を行う。そして子どもが集まるまちになれば，自然とその親世代もその地域に根付くようになるのではないだろか。今回実施したまち歩きでは，報告者らがカメラを持つのではなく子どもたち自身がカメラを構え，興味が向くままに撮影をしてもらうという方法で行った。写真を撮るのもパンフレットを作成するのも参加してくれた子どもたち自身であるということを心掛けた。その結果，子たちの主体性（自ら学ぼうとする力）を引き出すことに成功したと感じた。

報告者たちは，さくら市喜連川でのまち歩きや観光パンフレットづくりワークショップを通じて得た〝子ども視点〟を大切にし，さくら市喜連川の観光パンフレットを作成する。今後も、この成果を糧に子どもの視点に立ったまちづくりを実践していきたい。